

熊本県立松橋西支援学校(高等部上益城分教室) 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標
<p>心豊かでたくましい児童生徒の育成</p> <p>○心豊かであるということ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優しく思いやりがあり、自然や周囲の人を大切にすることができる。 ・ 自分の好きなことを見つけ、感性豊かに感じ取ったり表現したりできる。 ・ 友達や教師と積極的にかかわり、気持ちを重ね合わせながら活動できる。 <p>○たくましいということ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら健康に気をつけ、体力を高めながら元気に毎日を過ごすことができる。 ・ 困難さを感じても、自己肯定感を元に挑戦する意欲を持つことができる。 ・ 自らの生活に目標を持って、積極果敢に取り組むことができる。

2 本年度の重点目標
<p>○よりよい授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育てたい資質・能力を踏まえた年間指導計画の充実(教務部) ・ 性に関する教育の検討・充実(保健体育部) ・ 児童生徒会活動の充実と、他校や地域社会との交流の推進(生徒指導部) ・ 児童生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進(進路指導部) <p>○よりよい教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科別の指導における授業作りの検討及び共有(研究部) ・ 児童・生徒のニーズに応じたICT機器活用の推進(情報教育部) <p>○よりよい学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内外の行事(文化芸術鑑賞)・諸活動を見渡した円滑な業務の遂行と、他校との連絡調整(総務部) ・ 環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上(環境安全部) ・ 一人一人に寄り添う教育的支援を行うための校内支援の充実(教育支援部)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	時間外勤務時間の縮減を目指した業務改善の実施	・時間外勤務縮減を目標とした計画的な業務の遂行	・主任主事を中心に、各分掌部の会議の在り方(会議時間)を検討し・実践する。	・家庭訪問、個別面談時の短縮日課期間を十分に設定し、職員の業務時間の確保を行う。 ・毎月の衛生委員会時に職員の勤務実態を把握するとともに、該当する職員には積極的な声かけと面談等を実施する。	B	・特定の職員の時間外の勤務が多いことは課題として認識しており、該当する職員には積極的な声かけと面談等を実施した。しかしながら、保護者対応や生徒への特別な指導など、突発的な対応が多く、効果的な時間外勤務の削減まではできていない。 ・一方、児童生徒に向き合うための時間(授業準備・生徒支援についての話し合い・教材づくり)を設定して、毎週金曜に実施した。授業準備や児童生徒について、職員同士が話をする時間が増えて、よかったという意見が職員からあった。
授業の充実	育てたい資質能力を踏まえた年間指導計画の充実	・生活単元学習及び作業学習における指導内容の整理	・整理した指導内容を取り入れた教育課程表及び年間指導計画を作成する。	・指導内容を整理する上で必要となる視点を具体的ににする。	A	・小、中学部においては、各教科や合わせた指導等についての内容・時数バランス等の検討を行い、年間指導計画に反映した。また、交流教育に視点を当てて目標や意義を確認した。高等部においては、作業学習について検討し、そこで整理された「大切にしたいこと」を学部目標に反映させた。分教室においては、インクルーシブな学校運営モデルと

						<p>して、甲佐高校との取組を検証し、次年度につなげると共に、作業学習についても高等部と課題や方向性を共有することができた。次年度は、理科の教科で、各学部間のつながりや系統性を課題として検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部とも、長期休業中に計画的に教育課程についての意見集約や検討会を実施し、次年度の教育課程編成につなげることができた。
性に関する教育の検討 ・充実	<ul style="list-style-type: none"> 相手との距離感やプライベートゾーンの指導 人との関わり方について、また自分と相手の体を大切にする等の指導、意識向上に関する取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 全学部をとおした性に関する教育の年間指導計画の見直し、作成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって分かりやすい資料を作成し、保健だよりや(まつけん教室だより)を発行する。学校と家庭で足並みを揃えた指導支援を行う。 職員、保護者を対象とした講師招聘研修会(性に関する講演会)を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学部において保健や生活単元学習の中で、生徒にとって分かりやすい資料を作成し、教室掲示など日頃から目にできる環境を整えた。さらに、「まつけんだより」を発行することで、学校と家庭で共通理解を図りながら、指導支援を進めることができた。 職員および保護者を対象とした講師招聘による性に関する講演会を実施し、性に関する指導内容や児童生徒への対応の見直しを図るとともに、新たな知識や視点を共有する機会となった。 次年度は、男子の児童生徒の性に関する保護者の悩み相談などについて検討をすることと、他人との接し方・距離の取り方について、保体部で教材をまとめて各学部で利用するように進める予定。 	
個に応じた指導の充実につながる実態把握をする力や授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 実態把握の方法や適切な特性の理解を踏まえた教科別の指導や自立活動の授業づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の学びを生かした教科別の指導の在り方について検討会を各学部で実施する。 自立活動の基礎基本研修を実施し、自立活動の指導における専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育・音楽・図工(美術)の各教科でグループを編成し、意見交換型の学部研を実施する。 スキルアップ研修と自立活動基礎基本研修を関連させ、代表事例の授業検討会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度授業づくりを深めた3教科について、学部内でグループに分かれ、対象生徒を設定し、個に焦点を当てた授業づくりに取り組んだ。実態把握や自立活動の学びについての情報共有を行った上で、計画、実施、評価のPDCAサイクルで授業づくりについて深めることができた。最後にグループ間での意見交換会を実施したことで、さらに理解を深めることができた。 自立活動基礎基本研修では、特別支援教育経験が、3年未満の職員(その他希望職員も含む)を対象にして、自立活動の基本的な知識習得や自立活動設定シート・教材の作成に関する研修を実施することができた。研修後のアンケート調査では「学びになった」と回答した職員が大半であり、職員に必要な研修であったと考えている。2日間続けた研修だったので、次年度の研修会の持ち方については、検討したい。 	

	<p>生徒の情報や教師の機器の扱い方の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のICT機器の使い方と授業や生活場面での実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のICT機器の習熟度を把握し、正しい知識や指導方法を学んだ上で、授業等で実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のICT機器の習熟度を事前アンケートで把握する。習熟度に合わせた3つの研修の中から1つを選択し、校内研修で理解を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートで、教員の習熟度を把握し、その結果を踏まえて研修内容を調整したことで、各教員のレベルに応じたスキル向上を図ることができた。 ・一方、情報機器の活用に関しては、教員間で習熟度の差が依然として大きい。今後は定期的・継続的に学ぶ機会を設けたい。 ・また、職員間の情報共有については、オンライン会議を積極的に取り入れるようにしたいが、会議や研修に係る情報機器の準備については、情報教育部以外の職員もできるようになる必要がある。この体制づくりを課題として進めたい。
	<p>生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高連続的で系統的なキャリア発達を促す啓発と情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立や社会参加に向けて、つけたい力の重点項目を設定し、系統的に育成を図る。 ・保護者の情報ニーズを把握して、それに即した進路だよりを毎月発行する。また、進路コーナーの整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアアップウィークの取組改善と充実を図り、つけたい力の啓発と育成に取り組む。 ・高等部の様子や卒業生の暮らしぶり、進路先や関係機関からの声など内容の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の目的や目指す子どもの姿を各学部伝えることができた。取組の様子など、各クラスからのフィードバックも得られた。 ・新しい重点項目として「投票しよう えらんでみよう」を設定し、内容の見直しや改善を行った。 ・アンケートフォームや個別面談などから寄せられた質問に対して、個別または進路だよりを通じて情報提供をすることができた。 ・家庭での「手伝い紹介」や、就労や進路情報のポスター掲示などはできたが、事業所のパンフレットなどを掲示する進路コーナーの整備については、各学部で課題がある。高等部では、資料の最新版への更新を行うことができていない現状がある。次年度は、この点を改善したい。
	<p>インクルーシブな学校運営研究事業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学びを両校から提供し合い「共に学ぶ」を一層深める新たな学校づくりの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・甲佐高校と連携し、これまで実施していた交流及び共同学習のさらなる充実と、新たな共同の学びの形を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実務担当者会、連携協議会等を定期的に開催し検討を行う。 ・共同で学習に取り組めそうな内容を出し合い、実際に授業に取り組むようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実務担当者会は毎週、連携協議会は年間3回実施することができた。実務担当者会については、検討内容によって、参加者を調整する等して、充実を図ることができた。 ・甲佐高校との合同の体育大会、青垣祭については、合同の職員会議、担当者の会議を実施し、内容の充実を図ることができた。青垣祭に向けた音楽の共同学習は回数を増やし、国語では年賀状の書き方の学習を新たに実施した。両校の職員へのアンケートも実施しており、各教科で取り組めそうな学習については、今後実施に向けて検討していく。

生徒 (生活) 指導	生徒会活動の充実と、他校や地域社会との交流及び共同学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動内容の充実 甲佐高校や地域の方とともに活動する場の設定と活動内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が協力しながら行事等の運営に関わることのできる活動を設定する。 各交流及び共同学習の目的を共有し、創意工夫し合いながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に、よりよい学校生活の充実と向上を目指した活動を設定し、生徒が主体的に取り組むことができるようにする。 活動ごとに、目的や内容を共有する事前の打ち合わせの場を設定し、一人一人に合わせた教材の準備をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会長と副会長は、学校行事等で司会や発表を担当した。原稿の準備や事前の練習時間を設けることで、自信を持って発表し、分教室の学習活動を盛り上げ充実させることができた。他の生徒も、自発的に準備を手伝ったり、応援したりする様子が見られた。 青垣祭での甲佐高校との合同の音楽発表の活動では、事前又は活動中の打合せに繰り返し取り組んだ。歌唱や器楽演奏、手話等の役割分担を生徒に合わせて行うことができ、教材の準備も行うことができた。当日の発表は、生徒一人一人が学習の成果をしっかりと発揮することができていた。
人権教育の推進	命を大切に育む指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修と人権学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修・人権学習を計画的に実施し、人権感覚を高める。 年間計画を立て、各学部において実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権に関する内容について職員研修を年6回行い人権学習の充実につなげる。 「命を大切に育む指導」とともに、人権について各学部で情報共有し、啓発と対策を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修は年6回実施した。他学部の職員と交流する研修を設け、情報共有や自身の振り返りを行った。外部講師による講話での研修を実施し、子どもの自尊感情を育てるためにどうしたらよいか、子どもとの関わり方等を考えることができた。 各学部で人権学習の授業を計画的に行うことで、自他の気持ちや行動を考え、他者の気持ちを大切にすることを指導できた。 次年度に向けても、引き続き職員の人権感覚を意識づけるために、今年度同様の研修を実施する予定。
いじめの防止等	いじめの未然防止・早期発見・対策等における取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止の取り組みの情報発信 校内支援委員会及び関係機関との連携の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 各校舎に情報集約担当者を配置し、いじめと思われる情報を集約した後の関係機関との連携方法・対応について整理及び職員への周知を行う。 迅速な実態把握と職員への周知など、組織的対応ができる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止研修にて、初期対応等を職員に周知し、さらに、情報集約担当者を中心に校内支援委員会と共有して、早期発見、早期対応に取り組めるようにする。 対応マニュアルの改善、見直しを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 心のアンケートや情報集約担当者が把握したいじめに関する案件では、対応マニュアルに沿って、いじめに該当するか、いじめを前提として認知するかを、初期対応にて判断し、迅速に対応することができた。また、いじめに該当するか、いじめを前提として認知するかの違いで、誰がどのように生徒や保護者へ対応するのか、担任・学部主事・管理職と連携しながら取り組むことができた。 対応マニュアルの改善、見直しについては、今年度の取組を基本の流れとして、今年度及び次年度の取組を検証し、必要な場合に見直す予定。
地域支援	地域の幼・保、小中高등학교における困り感のある児童	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校等のニーズに対する専門的見地からの指導・支援 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談で課題を共有し具体的方策を検討する。 コーディネーターを中心と 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズに沿った確かな情報提供、具体的方策の提案を行う。 校内の支援体制を構築し、各機関 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学校のコーディネーター、教育委員会との関係づくりが密になり巡回相談が活発に活用された。 校内の支援についてはコアティーチャーを設定し、指導充実の

	生徒への支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援体制整備 福祉、行政、医療等の各機関との連携推進 	<p>した校内支援体制整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉・行政等の各機関との連携を図り、多方面の見守りや、アプローチを進める。 	<p>と連携を図りながら、指導をアップデートする取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多角的に幼児児童生徒の状況を捉えるための関係機関を含めた巡回やケース会議の充実を図る。 		<p>ための方策を検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSWやSCとの情報共有を行い各機関との連携を図った支援網が整備されつつある。ケース会議も積極的に行われ、スピーディに情報共有を行なうことができている。 次年度の課題は、就学に向けた取組と考えている。より細かな巡回相談・情報共有で、教育支援委員会への参加を積極的に働きかけることができるように活動したい。
	人権教育の視点で、一人一人に寄り添う教育的支援を行うための校内支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の障がいや特性、課題の背景を理解し、個々に応じた適切な指導・支援を行うための校内支援体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 課題共有、情報整理を行い、一人一人の課題に応じた校内の役割分担を明らかにし、必要な指導実践の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 早急な課題共有やケース会議を実施する。必要に応じ、校内支援委員会、関係機関と連携し、具体的実践につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援委員会を定期的実施し、校内支援に関する全体像を把握することができた。ケースに応じて、生徒の個々の状況を把握したり、問題の背景を考えたりしながら、その後の動きに繋げることができた。必要に応じ、他の分掌部や外部専門機関等と連携して取り組むことができた。 SCとの連携においては、職員との座談会を設定するなど、職員が相談しやすい環境づくりを行うことができた。
地域連携(コミュニティスクールなど)	学校運営協議会(総合型)における協力体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 甲佐高校をはじめ、地域と連携した学校の活性化 地域に開かれた学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 甲佐高校との交流及び共同学習の取組について報告し、意見や助言等をいただく。 分教室の地域連携行事等の取組についてまとめ報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 甲佐高校と一緒に取り組んでいる活動をわかりやすくスライドで示し、現在進めている取組について整理して伝える。 地域連携行事については、写真等を用いて、わかりやすくまとめ報告する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 甲佐高校との交流及び共同学習の様子や職員研修の様子については、カリキュラムマネージャーが「わくわく通信」としてまとめ、定期的に職員への周知を行っている。また、ホームページにも記載することで誰でも閲覧できるようにした。 地域への周知としては、広報甲佐への寄稿を甲佐高校と連携して行った。作業製品販売会や青垣祭の合同発表の様子等について伝えることができた。
	環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検の確実な実施と点検結果へ迅速な対応を行う。 ヒヤリハットを報告することにより、職員の危機管理意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校舎共通したQRコードを用いて安全点検を行い、情報の集約や対応の迅速化を図る。 ヒヤリハット週間を毎月1日～7日までに固定し、職員の意識が高まるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> QRコードを用いて全校舎共通の安全点検表を作成したことで、安全点検の結果を速やかに集計し、改善につなげることができた。 7月までは、毎月1日～7日をヒヤリハット週間として実施したものの、周知のタイミングが遅れていた。2学期からはQRコードを用いて、事案発生後にすぐに入力して、職員へ周知できる方法へ変更した。このため速やかな情報共有につながった。 学年始休業中に安全対策マニュアルを用いた職員研修及び職員のみ避難訓練を実施し、職員の安全対策に対する意識向上を図るとともに、生徒の受け入れ準備を整えた。また、宇城市防災消防課及び近隣県立学校と

				識や災害対応能力を高める。	の大規模災害を想定した避難所運営についても協議・見直しをし、現在のそれぞれの学校の状況に応じたマニュアルに変更することができた。
--	--	--	--	---------------	--

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 松橋高校と松橋西支援学校の月に一度の連絡会議が機能していることから、分教室と甲佐高校においても、月に一度の連絡会議を実施するようにした。 運動会、青垣祭(文化祭)に参加をしており、特に青垣祭では、生徒が作業学習で作った製品を販売することもできている。また、今年度は甲佐高校とインクルーシブ教育の研究を行っている。これらの特色ある活動を外部に発信していくことが、本校同様に必要である。

<p>5 総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 甲佐高校との交流学习については、これまで行ってきた音楽を中心とした授業だけでなく、国語(年賀状の作成)の内容を扱うことができ、他の教科へ広げることができた。 甲佐高校と分教室との間で、月に一度の連絡会議も行うようにしたため、より連携できることが見込まれる。

<p>6 次年度への課題・改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の交流学习については、甲佐高校とも協議し、理科の内容を行う予定である。またこれまで実施してきた青垣祭(文化祭)参加に向けた音楽を扱う交流学习も継続したい。 甲佐高校との連絡会議では、行事の打合せや交流学习の打合せなどを確実にし、職員同士の交流を深め、交流授業の充実につなげたい。
--